

第1回くらす部会会議録

日 時	2018年4月18日(水) 13:00～
場 所	地域連携交流施設 2階 会議室
テーマ	1、本日参加メンバー 2、協議課題 3、その他 4、次回開催日の調整
内容	<p>1、参加メンバー：16名</p> <p>2、協議課題</p> <p>○自己紹介ワーク グループごとに共通点と、自分だけの周りとは違う点を書きだし、自己紹介とした。初めての人はもちろん、知っている人同士でも新たな一面を垣間見ることができた</p> <p>○播磨町地域自立支援協議会とは</p> <p>★この協議会は、障がいのある人の暮らしに関する個別課題・地域課題に取り組むことを基本にしています</p> <p>★この協議会は、本人を含む当事者・地域住民団体・事業所・雇用・教育・保健医療・福祉などの関係者からなる組織の中で、相談支援が個々に行き届くように、人と人をネットワークする役割を果たしていくものです</p> <p>★この協議会は、障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画が実情に合うように協議検討し、組織構成員全てが、課題解決に向けて、それぞれの立場で何が可能か、役割分担を明確にします</p> <p>○29年度の活動の振り返り</p> <p>○30年度のくらす部会の重点項目検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者計画を読み、重点項目を検討 <p>A グループ</p> <p><input type="checkbox"/>在宅福祉の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の連絡会(サービス向上のため) <p><input type="checkbox"/>集える場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいによっては顔を合わせて集まる場がなかなかない ・三障がい、難病、内部疾患の人がピアで話せる場 ・精神障がいのある人等、ピアカウンセリングの場作り(養成) ・地域活動センターのような、ゆるやかな場 ・はたらく部会にはみんなのお茶会があるが、くらす部会でももっと自由な集まりを作ってもよいのではないかと <p><input type="checkbox"/>安心して暮らせる場の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く場づくりをすすめ、本人の希望に沿うくらし方探し ・総合相談対応窓口にくらし方の対応提案、一緒に考える雰囲気 ・空き家の活用(税金の軽減などを含めて)

□サービス提供の相乗効果

- ・播磨町には社会福祉協議会しか障がいをベースとした社会福祉法人がない。お互い切磋琢磨するような法人があった方がいい
- ・社会福祉法人の設立支援・誘致

□住宅改造助成の拡充

- ・現在は1回限りの利用(100万円)
- ・進行性や重度化含め、都度のニーズの変化に応じた対応が必要。→複数回利用可に
- ・上限額を変えずに、最初に50万円しか使っていないとしたら、残りの50万円を二回目以降で使えるようにするなど、助成の仕方を考えていく必要があるのではないか

□移動支援の充実

- ・なかなかサービスが利用されていない、またはしにくいという現状
- ・買い物、レジャーを楽しむきっかけづくり
- ・障がいのある人の社会参加を促進するにはどうすれば
- ・移動支援の事業所が少ない
- ・移動支援とコミュニティバス施策(手を挙げる事業者がない現状)の関連性
→今くらす部会から提言すれば盛り込まれる可能性があるため、今年度に協議する価値はある。
- ・町オリジナルの支援

□知らない事を知る

- ・その1 制度の運用

重度訪問介護 共生型サービス 行動援護 等

→学習会 阪神間の利用例等 考え方の整理

- ・その2 外出する為の方法を知る

移動支援(公共交通)タクシー(チケット)移送ボランティア

→①現状確認 ②調査(他市町) ③検討

□福祉に人が来ない現状

- ・「人」を育てるには?

→教育?人材発掘?ヘルパー養成?

①調査、研究②町としてできることは?

B グループ

□安心して暮らせる場の確保

- ・グループホームがなく、日中活動ができる場も町内には少ないため、居場所作りが必要
- 体制強化、増やす

□精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築

- ・その人らしく生活するための体制づくり
- ・自立支援協には様々な立場の人間が来ているので、それぞれの立場から意見を出し合いながら、地域のケアシステムを目に見える形でマップ化→足りない所に対して提案

重度心身障がいのある人や児童の支援の検討

- ・ニーズと事業所、支援者のバランスなど現状把握をしたうえで、重心の方の支援が良い方向で進められたらと思う

公共施設等のバリアフリー化の促進

- ・バリアフリーから関連して、合理的配慮や助成事業、住宅改造にもつながっていく

移動支援の充実

- ・事業所やヘルパー等の課題もあるが、社会参加の機会を確保するための施策が打ち出せたらと思う

C グループ

在宅福祉の充実

- ・ヘルパーの人材を養成する

安心して暮らせる場の確保

- ・緊急時の空き部屋の確保
- ・GH の設置
- ・緊急時の居場所
- ・ピアカウンセリングの場づくり

集える場づくり

- ・移動支援がなく、土日に家にいるだけという生活が多い
- ・グループホームの新規開設を訴え、補助する
- ・ひきこもりの人たちが、外に出やすいイベント等を企画し、外の楽しさ、安全性等を知ってほしい
- ・家庭以外での安心できる居場所
- ・障がいのある、なしに関わらず、集まれる場所作り、お互いを知れる地域の横のつながり

重度心身障がいのある人や児童の支援の検討

- ・事業所が少ない
- ・重度訪問介護、行動援護の充実
- ・重心を含む家庭支援の充実→相・保・教等のメンバーでの訪問チームを作る

精神障がいのある人にも対応した地域包括ケアシステムの構築

- ・精神障がいの人たちが、少しでも働く喜びを味わえるように役場で簡単な作業をさせてほしい
- ・困る前から親などの研修が必要
- ・福祉サービスの利用方法や申請を勉強する
- ・相談窓口をわかりやすくするカレンダー化、フローチャート化(いつやっているのか、だれがやっているのか等)

公共施設等のバリアフリー化の促進

- ・個人店等のバリアフリー化が進んでいない
- ・トイレ内の荷物おき場
- ・お手洗いのスペース確保
- ・身障者用のトイレは意外と使いにくい、石ヶ池パークセンターのトイレも使えない。当事者に設計に携わってもらうことも必要かもしれない

住環境改善のための支援

- ・住宅改造の柔軟な利用
- ・他市町の取組みを勉強しながら、播磨町らしい方法を考える

□移動支援の充実

- ・事業所が少ない
- ・時間的な自由が少なく、利用しにくい
- ・縮小傾向にあり、三か月前から言わないと移動支援ができない現状→ほぼ利用できない

□ヘルパーの数が少ないため、養成する機会を

様々な意見が出たが、特に重視する項目は

- ・集える場づくり
- ・人材育成
- ・住宅改造
- ・移動支援
- ・当事者の意見を反映する
- ・多方面の参加者の視点を盛り込んだマップ作り、資源の見える化(相談窓口についてはまもる部会で検討する)

となった。

これらの意見を次回運営会議にて再検討し方針を決定する。

○部長・副部長の選出について

新計画のもと、まもる部会が設立され、新体制となるのを機に部長制をとることとする。

30年度くらす部会の部長は甲斐さん、副部長は平井さん

3. その他

○推進会議・全体研修会

- ・推進会議：6月20日(水)10時～播磨町役場3階BC会議室
- ・全体研修会

第1回 8月10日(金) 13時～播磨町健康いきいきセンター

講師：兵庫県立尼崎総合医療センター 石原剛広氏 愛着形成

第2回 19年2月7日(木) 中央公民館

講師：濱口 直哉氏 合理的配慮 第二弾

- ・6月2日(土)相談支援ネットワークの総会が加古川で開催

その場で記念講演会も行う。厚生労働省相談支援専門官

詳細は追ってチラシにて

4. 次回開催日の調整

6月28日(木)13:00～